

---

# 静かに結婚させてください

ゆや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

静かに結婚させてください

### 【Nコード】

N9558X

### 【作者名】

ゆや

### 【あらすじ】

ゴールイン間近のカップルは、その日霧囲気の良い喫茶店でプロポーズをし、それを受ける気満々で居た。居たのだが、それを邪魔し、あまつさえ二人の仲を引き裂こうとしたのは、両脇で別れ話をしていた二組の男女のカップルだった。

ラブコメディ全開短編。

女性の名は田辺真琴。たなべ まこと今年、25歳の中小企業に勤めるOLの女性。男性の名は廣川圭太。ひろかわ けいた今年、26歳の大企業に勤めるサラリーマン。二人の出会いにはベタに、真琴が仕事で圭太が勤める会社に来た時にお互いに「良いな」と思って、連絡を交わし、何度かデートをしたり、仕事帰りに飲みに行ったりして、付き合い始め、そしてプロポーズして結婚。という所まで行く所である。

プロポーズする場所は、こじんまりとしつつもどこか上品な雰囲気のある喫茶店。圭太は真琴にプロポーズする為に、これまたベタに給料三か月分の結婚指輪を購入して、真剣な表情で真琴と対面していた。

店に来て、早一時間。本来ならもうすでにプロポーズして、真琴が「はい」と言っただけでたくゴールインのはずだった。真琴もそのつもりでこの喫茶店に居るのだが、雰囲気は雰囲気、プロポーズするに出来ない。

原因は、真琴と圭太が座っている席の両方側にあつた。先ほどから別れる別れないと言い合っている二組のカップルに挟まれてしまったゴールイン間近のカップルは空気を読んで、言っに言えない状況にあつた。

二人は内心、どうしよう…と冷や汗をタラタラ掻きながら困惑していた。

「私の他に女が出来たって事！？答えなさいよ、流星！」せいせいせい

「別れるってなんだよ！俺のどこに不満があるって言うんだよ！！」

星奈！」せいな

「うるさい。そういうところが嫌だ。別れるって言うてるんだから、別れる以外の選択肢は持ち合わせていない」

別れを切り出していると思わしき男女は息ぴったり、発音ぴったり言葉が紡がれる声は聊か不機嫌そうである。



固まる二人の男女を置いて、喫茶店を後にした後、「じゃあ」というこれから帰るかという意味合いで別れる時に、圭太と真琴はハツと我に返った。

「ま、待った！ゆ、指輪、返してくれ！」

「と、とりあえずこの指輪返します！」

「「なんで？」」

いや、なんでじゃないし。二人の麗しい男女が至極不思議そうにそう返してきた事に二人は焦った。このままでは最愛の人と結婚出来ないではないか。その前に誤解かねば……。という二人の焦りを丸々無視して、帰ろうとするよく似た男女を引き留めて、近くの公園のベンチで事情を聞き出す。

「あの男、束縛酷くて、私が女友達と遊び行ってくつて言った時も「ダメ」って言うの。だから別れようと思って、あの喫茶店で別れ切り出したら怒るんだもの。何がダメって、今までの行い全部振り返ってから言っしてほしいわ！」

「あの女も。束縛酷い癖に、浮気しててさ。俺の気を引かせたい為なのか、それとも俺も浮気相手の一人なのかどうか知らないけどさ、言ってる事全部矛盾ばっかで凄くウザかったんだよね。だからあそこの喫茶店で別れ切り出したんだけど、癩癩起こされてね」

巻き込まれた。瞬時に思った二人は、ため息を吐き出した。事情は分かったし、二人のこの容姿ならそういう事に巻き込まれてもおかしくはないだろう。

男女共に彫りが深い端正な顔立ち。女性の方は、腰までの美しい黒髪を揺らし、華奢な割に、豊かな胸と、思わず抱き寄せたくなるような細腰と、セクシーに伸びた美脚。女として、真琴は完璧に負けている。

一方、男性の方は、前髪は長く、襟足まで伸びた美しい黒髪を掻き上げる。肩幅が広いのに、腰は細く、足はスラリと長い。服の上か

らじゃわからないだろうが、きつと脱いだら凄いのだろうと、想像はつく。こちら男として、圭太は完璧に負けている。

だからこそ、平々凡々な十人に一人は居るような容姿の二人は、この美麗な二人の隣を歩くなんて、どんな拷問だよと内心ツッコミを入れた。

「と、とにかく、名前も知らない君とは結婚できない。そもそも、俺が結婚する予定だったのは、真琴なんだ」

「ふーん」

「だ、だから、私も圭太以外考えられなくて…」

「へえー」

話半分しか聞いてないのか、曖昧な相槌を打ちながら、ベンチに座る二人はどこかへ電話を掛けていた。

「あ、あの一」

「あ、もしもし？俺だけど、結婚式の日取りなるべく早い方がいいんだけど」

「もしもしー？わ・た・し。結婚式会場なんだけど、雰囲気のあるチャペルでやりたいのよねえ」

なんだ。ちゃんと結婚する相手が居るじゃないか。ホッと安堵のため息を零す二人は、改めてどこか場所を移してこれからの家族設計を話そうかな、と考えていた矢先の事だった。

「「え、相手の名前？」」

どうやらこれまたタイミングよく聞かれたらしい。何をやるのか知らないが、もう巻き込まないでくれと、切に願った瞬間。

「真琴」

「圭太」

計ったように全く同時に言われた名前に度肝を抜かれた。

「「こらあああああ！！！！」」

その時の二人の行動は早かった。瞬時に携帯を奪い、通話を切った。

「だから結婚しないってば！俺の結婚相手は真琴！」

「私だって、圭太以外とは結婚しないってば！」

「結婚がドタキャンになったからって、そんなに焦らないで」

「勝手にドタキャンにしないで！」

ニコやかに笑う女性に噛みつく真琴は、その女性を敵と認知した。

「これから幸せになろうとする相手に茶々入れると碌な目に合わないよ」

「茶々入れてんのそつちだろ！！」

ニコやかに笑う男性に噛みつく圭太は、その男性を敵と認知した。

「まあ、とりあえず帰ろうか」

女性は圭太の腕に自分の腕を絡ませ、男性は真琴の肩に腕を回し、それぞれに帰路に着こうとする所をどんな手を使っても逃げ切れなかった二人は結局その日お持ち帰りされた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9558x/>

---

静かに結婚させてください

2011年10月26日23時12分発行